

親子で学ぶ！アイヌ文化体験モニターツアー

趣旨 アイヌ民族の自然観と精神文化を、活動を通して体験することで、参加者の興味・関心を高め、アイヌ文化への理解を深める。また、異なる価値観を柔軟に受け入れる姿勢を養成し、アイヌ文化の知恵と多文化共生の精神を養う。

企画運営のポイント

1. 国立施設である民族共生象徴空間「ウポポイ」を訪れ、アイヌの歴史や文化を体系的に学ぶことで、文化に対する基礎的な理解を深めただけでなく、異なる文化背景を持つ他者への敬意と多角的な視野を持つための契機とした。
2. 平取町アイヌ文化振興公社と連携して、弓矢体験やアイヌ文様のソリづくり、伝統的な食文化に触れる「ヒエのクッキーづくり」など、五感をフルに活用した活動を通じて、アイヌ文化が持つ自然観や知恵を、参加者が「自分事」として関心を深める場を提供した。
3. 親子プログラムとしての満足度を高めるプログラムを提供した。
4. 子どもの感性だけでなく、大人の視点からもプログラムを捉え直すことで、家庭内での対話や振り返りが深まる仕組みとした。
5. あえて親子が別々に活動する時間を意図的に設けることで、子どもは遊びを通じて直感的に学び、大人は専門的な解説や背景にじっくりと触れるといった、それぞれのライフステージに合わせた高い満足度を追求した。



期日 令和8年2月22日（日）～2月23日（月・祝）

対象 小学3年生～小学6年生とその家族 親子限定 50名程度

人数	4歳以上	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学生	大人	合計
	4	4	1	6	8	7	4	2	25	61

内容

2/22（日）

- ① 開会式
- ② 活動①（火起こし、弓矢体験、輪刺し、ヒエのクッキーづくり）
- ③ 活動②（アイヌ文様焼き板クラフト、アイヌ文様スクラッチアート）

2/23（月・祝）

- ④ 民族共生象徴空間「ウポポイ」で体験



参加者の声

- ・文字を使わずに文化を伝承しているのがすごいと思った。
- ・自然や動物、生活道具のすべてをカムイ（神）として大切に考える考え方が面白い。
- ・矢が的に当たって嬉しかった。アイヌ文様のしおりが綺麗にできた。
- ・北海道の地名がアイヌ語からきていることを知って驚いた。

【成果】

- ・大人・子ども共に94%以上が参加後に「アイヌ文化への興味が高まった」と回答しており、五感を通じた体験が未知の文化への入り口として極めて有効なプログラムだとわかった。
- ・子どもの97%が「自分たちとは違う文化を尊重すること」を非常に重要だと感じ、多様性の受容が図られた。

【課題】

- ・特に火起こし体験において「火がつくまでやりたかった」という意見が多く、時間配分の見直しや、成功体験を確実に得るための指導体制の強化が求められた。